

2022年7月29日

報道機関 各位

本邦初の翻訳書『タイタニック号の永遠の讃美歌』を出版 タイタニック号楽団リーダー、ウォレスト・ハートリーの生涯を描く

長崎大学言語教育研究センターの英語部門長を務める小笠原真司教授が、本邦初の翻訳書『タイタニック号の永遠の讃美歌』を出版しました。小笠原教授は、誰もが知るタイタニック号の事故の記録を、英語教育のノンフィクション教材として着目し、タイタニック号の真実と脚色された部分について研究を行ってきました。そして、これまでに「英語教科書におけるノンフィクション教材の扱い方ータイタニック号の真実と脚色ー」という論文も発表しています。今回、出版される翻訳書はその研究の一環として、3年近くの年月をかけて完成したものです。

小笠原教授は、タイタニック号の楽団のセカンド・ヴァイオリンを務めたジョック・ヒュームの生涯を描いた翻訳書「タイタニック号の若きヴァイオリニストーそれでも私は弾き続けるー」を翻訳し、2019年に上梓しています。今回はその楽団のリーダーである、ウォレスト・ハートリーの生涯を描いた書籍として、本邦初の翻訳書となります。

ぜひ、この機会に手に取っていただき、広く周知をお願いいたします。

【本書概要】

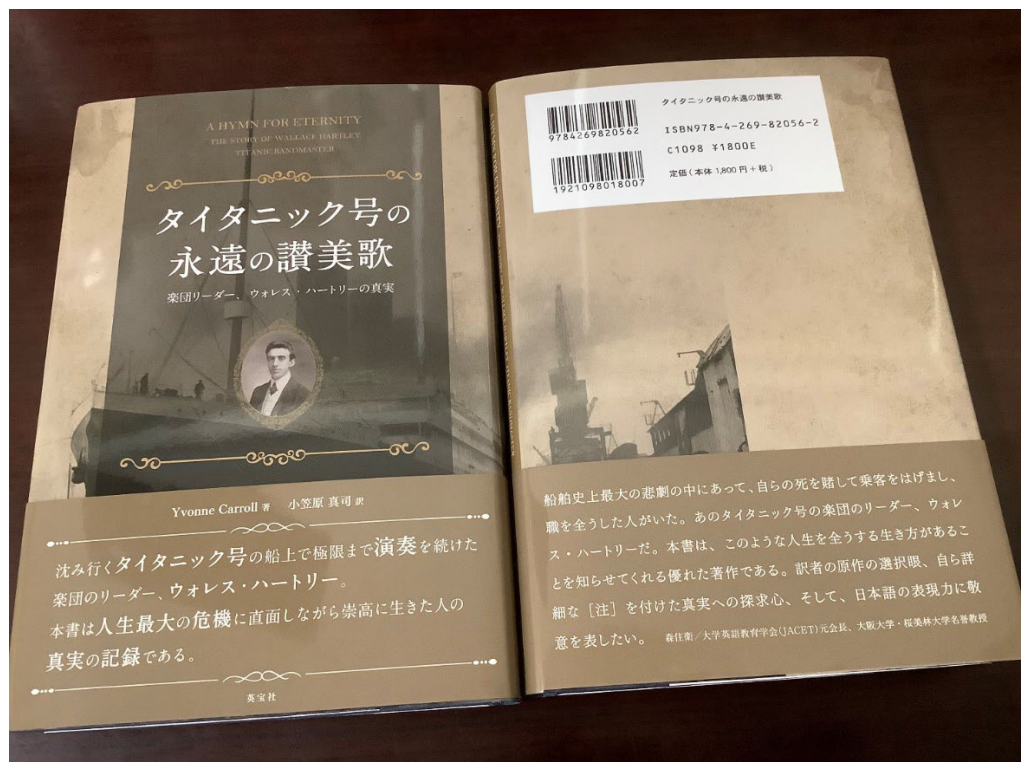
- 原書：A Hymn for Eternity Yvonne Carroll 著
- 翻訳：長崎大学言語教育研究センター 小笠原真司教授 著（英宝社）
- タイトル：『タイタニック号の永遠の讃美歌』 ¥1800（税別）
- 発売日：2022年6月30日

ポイント

- 1.本翻訳書は、タイタニック号の楽団リーダーを描いた、本邦初の翻訳書です。
- 2.タイタニック号の沈没事故は、船舶史上最大の悲劇です。そのため、数々の英雄伝説も生まれています。本翻訳書は、そのような伝説とは別の、事故における真実の人々の様子を伝えています。
- 3.タイタニック号の楽団員に関しては、「讃美歌を演奏しながら、船とともに海に沈んでいった」という伝説が一部で語られています。これらのどこが間違いで、真実はどこにあるのか、本翻訳書は語っています。
- 4.タイタニック号関係の翻訳書として、佐藤亮一氏翻訳の『タイタニック号の最期』（ちくま書房）があります。しかしながら、この翻訳書の原書は1955年に出版されたものであり、その後明らかになった事実に関しては触れられていません。本翻訳書によってタイタニック号の事故の最新の情報を知ることができます。
- 5.史上最大の海難事故にあって、自らの死を顧みず、乗客をはげまし、楽団を率いて演奏を続けたウォレスト・ハートリー。なぜ彼はこのような選択ができたのでしょうか。本翻訳書はその理由を幼少時代からの彼を振り返ることで明らかにしています。

本翻訳書の意義(小笠原教授のコメント)

タイタニック号に関しては、ノンフィクション教材としての英語テキストにも、かなりの脚色や潤色が施され、すでに伝説化しているものが多くあることに気づきました。また、伝説として語り継がれていることを、そのまま真実として紹介している書物やテキストがあることも知りました。原書 *A Hymn for Eternity* の著者、Yvonne Carroll 氏は徹底的な調査を行い、真実にできるだけ近づく努力のすえ、原書を書き上げました。タイタニック号の事実、特に一部伝説化した楽団員の真実の姿を多くの日本人の人々に知っていただきたく思い、今回の翻訳書を上梓いたしました。



『タイタニック号の永遠の讃美歌』

【本リリースに関するお問い合わせ先】

長崎大学言語教育研究センター英語部門長 教授

小笠原 真司 (OGASAWARA Shinji)

携帯電話 : 090-7443-5282

研究室電話 : 095-819-2094 (内線 2094)

e-mail: ogasa-s@nagasaki-u.ac.jp